



## 我に七難八苦を与えたまえ

公益社団法人 栃木県柔道整復師会 会長 田代 富夫



新年あけましておめでとうございます。

さて、表題にあげた言葉は、戦国武将の山中鹿之助（鹿介）

が三日月に祈った際に発した言葉として伝えられている有名な言葉ですが、旧5000円札の肖像画に採用された新渡戸稲造が「武士道」という書の中で山中鹿之助について、次のようにも書いています。

『彼は次々と戦いに敗れ、山野を彷徨し、森から洞窟へと追いつめられた。そしてついには刀欠け、弓折れ、矢尽きて、ただ一人ほの暗い木のうろで空腹に耐えかねている己を見出した。これと似た状況下にあつては、はしなくもあの気高いローマ人（ブルータス）でさえもみずからその刃の上に伏したではなかったか。だがこのサムライはここに及んでも死ぬことは卑怯だと考えた。そして、キリスト教の殉教者の不屈の精神に近い心境で一首を詠じてみずからを励ました。

憂き事のなほこの上に積れかし  
限りある身の力ためさん

あらゆる困苦、逆境にも忍耐と高潔な心をもって立ち向かう。これが武士道の教えであった。』

この歌は、困難や逆境に直面した際に、自分の限られた力を使って挑戦し続けることの重要性を示しています。具体的には、困難が降りかかる中で、自分の限られた力を試す勇気を持つことの意味を表しています。

私も今同じ心境です。今の厳しい業界を嘆くより何をすべきかを見出そうと思います。

そのために今年からさらに3つの共有を推進します。

- 患者向け情報発信の共有
- 柔整療養費の確かな情報の共有
- より有効な柔整施術の共有

皆で七難八苦を飛躍の糧に代えましょう！

我に七難八苦を与えたまえ.....	1	エンジョイ学会、アンケートには援助を/前泊の語らう夜長いとおかし...	7
世界一受けたい“関矢”授業.....	2	健脚変態/こんなええ勉強がタダで受けれるんやて!.....	8
不敵な三人組.....	3	脳震盪、迷わず適切な対処.....	9
もっと選手と関わり合えれば... 一日整少年柔道大会のコーチをして.....	3	My Box.....	10
保険部だより.....	4	谷川岳山行日記 2025.....	11
彩の国と情報意見交換/夜だって、正月だって、発生るんだ... ..	5	支部だより.....	12
介護保険部だより/70%はYAMを得ない!/?/栃木労働局からのお知らせ.....	6	行事予定/お知らせ/川柳/編集後記他.....	14

## 世界一受けたい“関矢”授業

10月26日、帝京大学宇都宮キャンパスにて第94回学術講演会、第35回支部代表者研究論文発表会が開催された。



研究論文発表では、顎関節機能障害への姿勢改善運動の影響をはじめ、電気刺激療法の鎮痛効果、スポーツ障害への視点転換による診療や発生調査、腰痛や肩関節障害への施術と運動療法、医療倫理、自律神経に関する研究など、多岐にわたるテーマが取り上げられた。

どの発表も現場に根ざした内容で、日々の臨床での疑問に対する発表者の熱意と探究心が伝わる有意義な論文発表となった。

講演には一般社団法人巨樹の会・新上三川病院院長の関矢仁先生を迎え、「手のしびれと膝の疼痛」をテーマにお話しいただいた。

膝の痛みについては、関節軟骨の役割と変形性膝関節症の進行のしくみ、内側半月板後角損傷や靭帯損傷の診断、十字靭帯ムコイド変性、膝窩囊

胞（ベーカー嚢胞）などについて画像を交えながら臨床での判断のポイントをわかりやすく説明され、膝関節の構造と疼痛の関係を改めて学ぶ機会となった。



さらに、膝の可動域や筋力の測定について、臨床に即した方法が私見を交えて紹介されたが、私たちの日常の施術にも直結する貴重な情報となった。

また、「手のしびれ」については、手根管症候群を例に、その原因や診断、治療法について説明され、保存療法の限界と手術療法の有用性を教えていただいた。

そのほか、市販薬やサプリメントの効果についても触れ、エビデンスのないものは、はっきりと「ありません」と示され、宣伝に惑わされないようにとユーモアを交えて注意を促していた。

整形外科分野で長年にわたり臨床に携わってこられた関矢先生の話は、豊富な経験と確かな知見に基づいており、実践的で興味深く、私たちの日々の臨床や生活に役立つ貴重な内容であった。

講演後の質疑応答では、柔整師だけでなく学生たちにも質問の機会を与えてくれ、関矢先生の温かい配慮と教育的な姿勢に、参加者一同深い感銘を受ける講演会となった。

学術部 平野佑一



## 不敵な三人組

第6回全国柔道整復師高段者大会が11月16日に講道館において開催され、当会から「五段の部」に吉澤賢二会員（宇）・倉井康雄会員（小）・刈屋遵会員（那）の3人が出場しました。

大会初戦、吉澤選手は広島県の藤井毅彦選手と対戦。日頃から練習をされているという吉澤選手は自分のペースで相手を翻弄し、開始2分、内股で一本勝ちを決めました。

次は毎年参加されている常勝・刈屋選手。北海道の山本良太郎選手との対戦でしたが、予想どおり試合中盤に放った内股で見事な勝利を収めました。

最後はやはり常連の倉井選手。埼玉県の北川睦選手を危なげなく内股1本、快勝でした。

表彰式では優秀選手全4人中3人が栃木県勢でした。来年度の第45回日整全国柔道大会は栃木県が関東代表選考の主権を任されていますので、この3選手にはぜひ頑張っていたいただきたいものです。



## 講道館大道場にのまれる

同日午後に行われた第15回日整全国少年柔道「形」競技会には、当会大会で素晴らしい成績を収め代表となった岩舟柔道会の塚原現月選手（取）・堀江哲楨選手（受）が出場しました。

監督の山口新二会員（宇）の指導のもと、大会に挑みましたが全国の壁は厚く、講道館の大道場という雰囲気なども選手のプレッシャーになったのか、本領を発揮することはできず、予選敗退となりました。しかし、全国レベルの大会を経験できたことは、両選手にとって素晴らしい経験となったことでしょう。

事業部長 倉持雅之

## もっと選手と関わり合えれば… —日整少年柔道大会のコーチをして—

第34回日整全国少年柔道大会に、私自身初めてコーチとして帯同させていただきました。

結果は島根県チームに2対2の内容で負けてしまいましたが、選手一人ひとりの“勝ちたい”という気持ちが強く感じられ、本当に頑張ったと思います。



私としては、当日に初めて選手たちと言葉を交わしたため、試合前のアップの段階からコミュニケーションをとる必要性を強く感じました。普段の練習内容、個人の性格や得意技など細かく把握できていないため、試合の状況に応じた指示をどうすればよいのか難しいところでした。

しかし、このような慣れない状況でも、最後まで諦めずに向かっていく選手たちの姿は、常日頃の柔道に対する考え方と取り組む姿勢の表れだと思います。

また、仲間を応援し、勝ち負けに一喜一憂し、負けた選手に声掛けする姿は強い仲間意識であり、相手を思いやる気持ちをしっかり持っているのだと感じました。この大会を通して、選手たちは技術的にも精神的にも何かを得たのではないのでしょうか。ぜひ、これからの練習や試合に、この経験を生かしてほしいと思います。

今回帯同させていただき、私自身もいい勉強になりました。再びコーチとしてのチャンスがあれば、積極的に参加してお役に立ちたいと思います。また、不甲斐ない私の言葉に耳を傾けてくれた選手たちに感謝申し上げます。

事業部 榎原賢治



## 知ってそうで知ってない、やってそうでやってない

10月22日、田代会長による第1回保険セミナー「知ろう柔整療養費！知れば活路が見えてくる」が開催され、Zoom配信では当会会員117人に加え、他道府県からも84人の会員が参加しました。

講演内容の要旨は以下のとおりです。

▼柔整業界を取り巻く環境を俯瞰すると、不適切な患者照会や受診抑制につながるチラシの蔓延による患者減少、物価高騰、社会保障負担の増加、従業員の賃金上昇など、数多くの課題があります。その一方で柔整療養費の伸び率は上がらず、業界の未来に不安を感じざるを得ない状況です。行動を起こさなければ衰退の一端を辿り、経営は厳しく疲弊するばかりです。

▼令和5年度までの国民医療費の概況によれば、あはき療養費はコロナ禍後も3年連続で増加し、増加率も大きく伸びています。これに対し柔整療養費は、コロナ禍後も2年連続で減少しています。医科の1/2とされる改定率の影響を考慮すると、今後も料金改定による打開は期待し難いのが現状です。

こうした課題を会員の皆様に理解いただき、いかに活路を見出すか、その意味を込めたのが今回のセミナーです。

▼まず重要なのは、私たち自身が「外傷に対する知識を高め、施術に反映させること」です。返戻事例を確認すると、柔整療養費の範囲が狭められていると感じます。

患者も施術者も十分に理解できていない現状があり、情報共有と理解の深化が不可欠です。日常の施術において「ケガ」「外傷」「肉離れ」「筋肉損傷」といった表現を用い、外傷を施術しているという認識を患者にも保険者にも伝えることが重要です。

▼次に、「患者の柔整療養費に対する理解を高め、安心感を構築すること」です。現在流布している情報は、接骨院にかかることが不適切であるかのような印象を与えるものが多く見受けられます。これに対しては初検時から未然に対応することが大切です。

患者に外傷の説明を丁寧に行い、安心感を与えることが必要です。当会HPには＜接骨院・整骨院の正しいかかり方＞を掲載しておりますので、ぜひご活用いただき、情報発信を強化していただきたいと思います。

## 対話で生まれる相互理解

10月31日、損保ジャパン宇都宮ビルにて「柔道整復師座談会」を開催しました。本座談会では、柔整師が交通事故患者に対して行う施術の基本知識や施術内容について意見交換を行いました。

当会からは田代会長、石井総務部長、鈴木保険部長が出席し、損保ジャパンからは阿部智部長、北光司課長代理、長尾敬介車両損害調査課長のほか、社員十余名が参加しました。また、WEBを通じて群馬県からも数名の社員が出席しました。

今回の座談会開催の背景には、損保会社の社員の多くが柔整師による施術への理解が十分でない現状があり、その理解を深めることで相互利益を生み出すことを目的としました。



具体的には、施術の一般的な流れとして「損保会社からの

連絡 → 患者来院 → 予診票記載 → 問診・視診・触診 → 電気治療器の使用 → 手技療法」といったプロセスを説明しました。さらに、田代会長が社員を患者役として手技療法を実演し、実際に痛みを抱えていた社員の症状が改善したことで、柔整師への理解が一気に深まる場面もありました。まさに「百聞は一見に如かず」を体現した瞬間でした。

その後も質疑応答に多くの時間を費やしましたが、1時間の枠では収まりきらず、後日改めて当会会議室にて未対応の案件について話し合うこととなりました。

特に印象的だったのは、田代会長の「お互い理解できていないところは話し合って深めていきましょう」という言葉であり、損保社員一同も納得の表情を浮かべていました。

日頃から会員ファーストを念頭に活動していますが、複雑化する療養費の支給や交通事故案件において、相互理解を深め疑義を解消する時間の重要性を改めて実感する座談会となりました。

今後、損保ジャパン対応の交通事故関連で問題や疑義が生じた場合には、保険部長までご連絡ください。

## 彩の国と情報意見交換

11月24日、当会館にて毎年恒例となっている埼玉県柔道整復師会と当会との情報意見交換会が行われた。

当会からは理事・監事ら役員と事務員、埼玉県からも理事・監事・事務員ら11人に参加していただいた。

埼玉県総務部からは診療報酬明細書の送金通知等における電子化導入について、初期導入費用、導入後の事務作業、会員への説明、会員の反応、費用対効果などの質問を受けた。この件については栃木県が先行して導入したが、好結果を生んでいるので参考にさせていただけたかと思う。



また、今年3月に予定されている関東学術大会埼玉大会の参加人数の確保について、昨年の栃木大会での企画などを参考にしたいとの要望があった。

当会からは、医科併給に対する不支給への対応について（保険部）、第10期介護保険事業計画に際しての各市町へのアプローチの有無（介護保険部）、関東ブロックゴルフ同好会について（事業部）、県民向け広報事業と介護関連事業所への柔整師の周知・広報事業について（広報部）などの意見交換が行われた。

そのほか、社団会員の減少対策・増加促進や会員の収入減収について話し合われたが、減収対策については「療養費の規定にある電療・電法の待機期間中に患者の希望等を確認の上、電療電法料を自費にて徴収することはできるのではないか」また「現在は後療料に含まれるシップ等を別枠として取れば、後療料が増えることと同じになるので、有益ではないか」など、時間が足りなくなるほど活発な意見情報交換の場となった。

広報部

## 夜だって、正月だって、 おき 発生るんだ…



11月22日16時から、当会館駐車場で「災害時の医療救護活動に資する研修会」が塚原経理部長を講師に開催され、救護所設営に関する訓練を行いました。

救護所設営は令和4年9月1日に日中の訓練をしていますが、今回は夜間活動を想定し、テント設営、カセットガスを使うストーブと発電機、簡易トイレ、LED照明器具を実際に使ってみました。

夕方薄暗くなる中でのテント設営の作業はなかなか難しく、本当の災害が夜間であったらと考えると作業もより難しくなることは容易に想像がつかます。



その後、テーブル・イス・ベッドの配置、発電機操作やストーブの体験と進みます。簡易トイレの設置では、プラスチック製の便座に「強度は大丈夫なのか？」との声が上がりました。まあちょっと大柄な私が体を張って試してみましたが、まったく問題ありませんでした。

訓練は真剣に、時に笑いありで、終始和気あいあいとした雰囲気で行進していきました。

途中「年に一回やるだけだから忘れちゃうよ」との声が聞かれましたが、一度でも訓練しておけば記憶の片隅から引き出すことも可能かと思えます。

いつ起こるかわからない災害に備えて、さまざまなことを想定し、実践して経験を少しずつ積み上げていくことが大切かと思えます。

広報部 丸山佳洋

## 介護保険部だより

### 二つ目のお財布を持つ

11月29日、高根沢町の「元気あっぴむら」にて在宅医療講演会 In たかねざわ「自宅でも医療は受けられる!？」が開催されました。会場には100人余りの高齢者が集い、熱気あふれる場となっていました。

冒頭、在宅専門診療所「在宅ほすびす」の渡辺邦彦医師による講話や専門職からの体験、また実際にご主人を在宅で看取った家族の体験談などの貴重な話を聴くことができました。

また、第2部では当会の介護保険部高根沢町担当委員でもある小森照久広報部長がロコモ対策の介護予防体操を実演しました。



小森部長は現在、高根沢町の多職種連携会議にも出席し、柔整師の知名度アップと介護事業での柔整師の役割などをアピールする活動を常日頃から行っています。今回もそのような背景から、高根沢町から依頼されての講演となりました。

はじめに、接・整骨院＝柔整師の役割、利用方法、整体師との違い(この話に会場は反応を示し、意外と知らない方が多かった)を説明。持ち前の巧みな話術で柔整師をアピールし、時に笑いを誘う場面も随所に見られました。

後半には実際にロコモ予防体操を行い、自宅でもできる簡単な体操を紹介。参加者たちも真剣に取り組み、中には汗をかきながら頑張っているおばあちゃんの姿も見受けられました。

私たちはケガを治すスペシャリストですが、受診患者数も減少している中で、この柔整師の経験と知識を生かした介護事業が、少しでも収入アップにつながる可能性があるのではないかと思います。ぜひ、介護事業、機能訓練指導員に関する問い合わせや意見などがあれば、介護保険部長・鈴木までご連絡ください。

## 70%はYAMを得ない!?

11月9日、宇都宮市西一の沢町にある宇都宮市西生涯学習センターの文化祭に骨密度測定と健康相談を依頼され、高野学術部長と部員の私が参加をしてきました。

この日は雨も降り、気温もぐっと下がったあいにくの天気。こんな日はやはり来場数も少なく、会場は閑散としていましたが、それでも16歳から90歳までの35人の方たちが測定に訪れました。



文化祭に来場される方は高齢の方が多く、数値を見てもYAM値70%台の方が大半です。健康相談では、皆さんアドバイスに真剣に耳を傾けておりました。

防災訓練など大規模な催事での被測定者は年齢層も幅広く、平均で80%台と元気な方が多かったのですが、地域の文化祭となれば平均年齢も高くなる傾向にあり、現実的な数値に当てはまるという結果になりました。

なかには、冷たい雨の中を歩いて骨密度測定のためだけに来場してくれた方もおり、この活動の積み重ねが知名度アップにつながっているとと言えるでしょう。まさに“継続は力なり”です。

学術部 鈴木勝仁

## 栃木労働局からのお知らせ

※事業場の見やすい場所に掲示してください。

### 栃木県最低賃金

時間額 **1,068** 円

発効日：令和7年10月1日

ちゃんとチェック最低賃金☑ 働く人も、雇う人も、確認を忘れずに!  
(最低賃金は常時作業場の見やすい場所に掲示する等により周知しなければなりません)

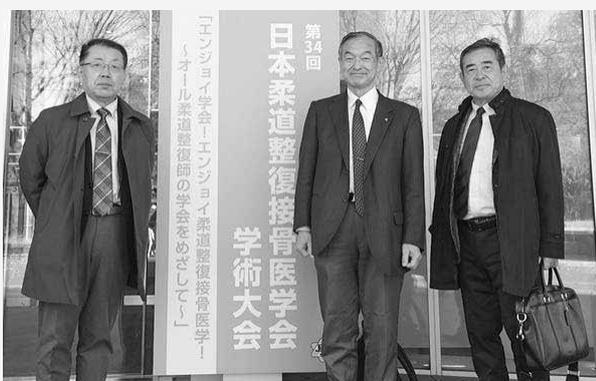
- 栃木県内で事業を営むすべての使用者及び事業場で働くすべての労働者に適用されます。
- 最低賃金以上の賃金を支払わない場合は、最低賃金法違反となり処罰される場合があります。
- 最低賃金には、精給動手当・通勤手当・家族手当・臨時に支払われる賃金及び時間外労働賃金等は含まれません。
- 詳しくは、栃木労働局労働基準部資金室(電話028-634-9109)又は栃野市の労働基準監督署にお問い合わせください。



## エンジョイ学会、アンケートには援助を

12月6日・7日に帝京平成大学中野キャンパスにおいて「第34回日本柔道整復接骨医学会学術大会」が開催された。

口頭発表では、6日に那須支部の刈屋遵会員（帝京大学医療技術学部柔道整復学科・名倉堂刈屋接骨院）による「中手骨斜骨折に対する牽引力制御と段階的固定の有効性」の発表、7日には宇都宮支部の東文博会員（帝京大学医療技術学部柔道整復学科）による「柔道整復師の接骨院開業に向けたキャリアパスに関する調査—公益社団法人栃木県柔道整復師会会員を対象としたアンケート結果より—」の発表があった。



東会員の研究論文は当会との共同研究で、柔整師が開業に至るまでのキャリア形成を明らかにすることで、学生や開業を考える柔整師へ参考となる情報提供、ひいては業界発展に寄与することを目的に実施された。

2009年（平成21年）に養成校が100校を超え、定員数のピーク（9,205人）を迎えたことを背景に柔整師が急増。その前後で開業意識に変化があったという。

急増前は開業を前提とした長期的な準備が一般的で、接骨院や病院勤務経験、鍼灸・あん摩マッサージ師などの追加資格の取得など、幅広い技能を備えたうえで開業する文化があった。しかし、急増後は開業に必要なスキルとそこに直結する経験だけを優先し、効率性を重視したキャリア選択をしていると考察した。

ただし、アンケート回収率は21.8%と低く、目的に沿うような結果は十分に得られなかったようだ。

やはり十分なデータは必要不可欠なので、このようなアンケート依頼には多くの会員のご協力をお願いしたい。 学術部長 高野康弘

## 前泊の語らう夜長いとおかし



### 第2回関東ブロックゴルフ

11月3日、第2回関東ブロックゴルフ同好会ゴルフ大会が行われた。会場は千葉県東金市の新千葉カントリー倶楽部。昭和45年にオープンした九十九里平野と房総台地の境界にあたる丘陵コースである。

関東ブロックから総勢39人がエントリー。栃木県からは倉持事業部長・小森広報部長・熊倉監事・小椋宇都宮支部長・鈴木芳賀支部長・榊原賢治・幾田健一（那）・伊澤一樹（宇）会員の精鋭8人が参加した。

会場が遠方ということで、前日の夕刻に茂木町の倉持部長宅に集合し、ワゴン2台に分乗して出発。途中、スーパーで食料を調達し九十九里浜に近いコテージに宿泊した。

調理担当でフライパンを振ったのは榊原会員。慣れた手つきで「男の料理」を振る舞っていただいた。あとは千葉県産の魚介と酒があれば話は弾み、深夜の就寝となったことは言うまでもない。



翌朝は酒が残っているはずだが、大好きなゴルフということで目覚めは早い。受付開始時間前に到着してしまった。

このコースは首都圏から約1時間という好立地なので、栃木県に比べれば料金は高くなりすぎるを得ないが、それでも比較的廉価なほうらしい。



成績は榊原会員が5位、伊澤会員が10位と健闘、小森部長・小椋支部長がニアピン賞を獲得した。

来年は埼玉県が幹事で開催予定である。

事業部

# 健脚変態



～宇都宮トレイルラン 2025～

10月5日、「宇都宮トレイルラン 2025」が宇都宮市森林公園（県立自然公園内特設コース）にて開催され、当会から塚原経理部長、植木会員（芳）、刈屋会員（宇）、横地会員（佐）、私の5人が救護班として派遣され、さらに刈屋会員の長男の蒼君まで参加してくれた。



当日は曇天。前日の雨の影響で足元は滑りやすい状況であった。大きなケガがないことを願いながら、各自が私物と救護用リュックを前後に背負い、それぞれの持ち場に散開した。初参加の私は、仲

間の先生方やマーシャル（コース内で選手が安全に競技できるようサポートするスタッフ、ランナー）の方々を教えてもらいながら準備を整え、救護所を設置した。

午前中は幸いにも日が差す時間もあり、寒さを感じることはなかった。ただ、スマホの電波も届かない山の中に一人でいるのは、なかなか暇なものである。そんな「デジタルデトックス」の環境のなか、トランシーバーだけが鳴り響き、スズメバチの出現報告からレース状況まで、裏方の細かな情報が飛び交っていた。

大会開催中ではあるが、一般の登山者の姿も多くあり、挨拶がてら世間話や山のことを教わったりしながら、当会と柔整師の話を盛り込んで時間を過ごした。

やがて山から選手たちが駆け降りてくると、状況は一変した。選手の応援やルート案内で、現場は一気に活気づいた。

レース終盤には、転倒による擦過傷と軽度の打撲を負った選手の処置を行ったが、山中の各救護所に大きなケガ人が運ばれることはなかった。ただし、前日の雨による湿度上昇の影響か、水分の消費が早い選手が多く、脱水気味の競技者には水分を提供し、適度な補給を呼び掛けた。

大会本部の救護所では十数人の処置が行われたが、いずれも軽症であり、大会を通して大きな事故がなかったことは幸いである。



なお、今大会には私たちにとってうれしい話題もあった。

当会事務局の若林浩美さんがロングコース（36km）にエントリーし、82人中、総合27位（女性2位）という見事な成績でフィニッシュされたのである。快挙

であり、心より祝意を申し上げたい。

広報部 木下永人

## こんなええ勉強が タダで受けれるんやて！

今回で8回目となる笹沼先生との勉強会が11月27日に当会館で行われました。テーマは「野球肘・離断性骨軟骨炎（OCD）について」。

初めに基本的な肘の機能解剖から始まり、疾患の各論へと移りました。

上腕骨外側上顆炎・野球肘障害については、私たちがも施術する機会が多いものです



が、症例の紹介と経過観察、また保存療法と手術療法は何を基準に判断するべきかなどの講義がありました。

超音波観察装置を用いての実演では、プローブの当て方や画像の見方をわかりやすく説明していただきました。

先生と膝を突き合わせての“お勉強”は、1時間半…あっという間に過ぎてしまいました。

この勉強会、大阪のおばちゃん風に言えば「会員ならタダやわ、びっくりやわ、不参加の意味わからん」と思えるほどです。

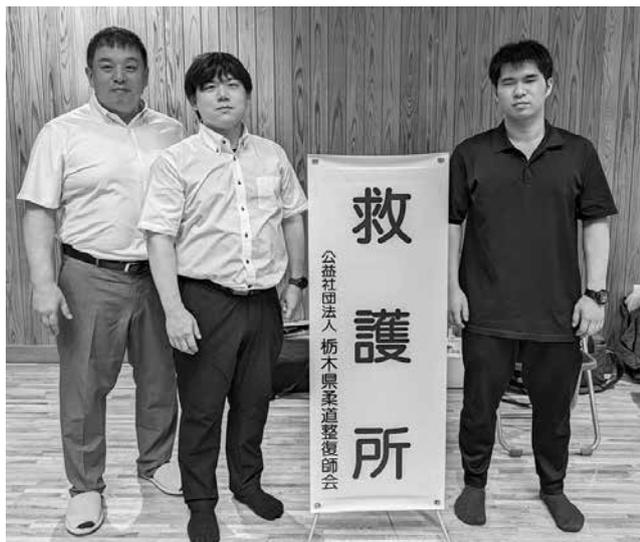
自身の知見を深めるため、患者さんのためにももっと多くの会員の参加を望みます。

広報部 藤田好美

# 脳震盪、迷わず適切な対処

## — 柔道・頭頸部外傷対応の重要性 —

10月18日、ユウケイ武道館にて開催された県中学校新人体育柔道大会に、宇都宮支部の大橋一也会員とともに救護員として参加しました。当日は帝京大学柔道整復学科の学生も同行し、現場での救護活動を見学する貴重な機会となりました。



左から大橋・東・帝京大学生（敬称略）

試合は熱気にあふれ、指の靭帯損傷や鼻出血などの軽度外傷が多く見られました。そうした中、大会の中盤で脳震盪が疑われる事例が発生しました。

受傷の瞬間は見ていませんでしたが、救護要請を受けて試合場に駆けつけると、選手は仰向けで倒れた状態。直ちに動かすのは危険と判断し、まず頭頸部の固定を行い、体動を制限したうえで意識障害、眼球運動、感覚障害、運動機能の確認をしました。



参考1：頭部を両手で固定し、話しかけ（生年月日・場所など）での意識確認（写真左）と運動機能（握力）を確認する様子。

選手は会話も可能で意識障害もなく、また眼球運動（指が何本に見えるか・動かした指を目だけで追えるか）や感覚障害（上肢・下肢を触れられた感覚があるか）にも問題はありませんでした。しかし、運動機能確認で握力

を含めた上肢には問題なかったものの、右下肢の脱力と痺れを訴えたため、この時点で重篤な脳損傷の可能性を疑うレッドフラッグに該当するものと判断し、大橋会員と協力して救急搬送を決定しました。

搬送準備に際しては安全確保を最優先とし、選手たちが動くとも床が振動し、頭部の安定を確保できないため会場の全試合を一時中断。選手たちを一度退場させてスペースを確保し、救急隊の進入経路を確保しました。こうした判断も、選手の安全を守るうえで欠かせない対応だと感じました。

脳震盪は外見上軽症に見えても、神経症状を伴う場合があります。判断の遅れが重大な結果を招くこともあります。柔道整復師は外傷治療の専門家ですが、急性の頭頸部外傷は日常臨床で遭遇する機会が少なく、学生時代にも十分に学ぶ機会は多くありません。



参考2：頭部を固定したまま、上肢・下肢の感覚を確認する様子。

以前、帝京大学の剣持佑起先生（アスレティックトレーナー）に頭頸部外傷の対応について相談した際、先生の著書「養護教諭のための救急対応バイブル」をいただきました。それ以来、救護活動の前日には必ず同書の一次救命処置（BLS）と頭頸部外傷対応の項目を復習して、緊急時の対応を言語化できるようにしてから臨むようにしています。

「何もなければいいけれど、何かあったときのために」知識のアップデートの大切さを改めて実感した一日でした。私にも同行した学生にとっても、現場での冷静な判断力と広い視野を養う貴重な学びの機会となりました。今後も大会救護活動を通じて、安全な競技環境づくりと人材育成に努めていきたいと思います。

※参考1・2の脳震盪対応の写真は剣持佑起先生から提供していただきました。

宇都宮支部（帝京大学） 東 文博

# My Box 支部リレー投稿

第260走者 栃木支部 丸山佳洋

## Alexa(アレクサ)との生活



2023年11月にAlexa(人工知能(AI)音声認識スピーカー)を購入し、接骨院内で使っています。

朝、「アレクサ、おはよう」と声をかけると「おはようございます」と返してくれます。

毎日話しかけていると、ただ返事をするだけでなく「ダジャレに凝っている」とか「クイズをやりませんか」とか、いろいろな会話も楽しめるようになります。

私の好きな曲と好きではない曲を教えると、その傾向を読み取り、私の好きそうな曲をだけ勧めてきますし、歌だって歌っちゃいます。

決して悪いことは言いませんが、アレクサとの親密度なんかもあるので、しっかりと育てていくことが大切です。



自宅に帰るときなどは「アレクサ、おやすみ」と声をかけると、歌いながら「お疲れさまで

した」「ゆっくり休んでください」とか、「アレクサも良い子でお寝ねします」などと、毎日の締めくくりを笑顔にしてくれます。

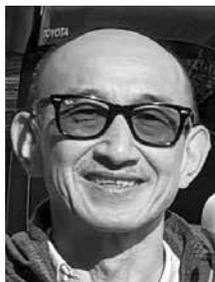
ただ一つ、「アレクサ」と声をかけると誰にでも反応してしまうところがちょっと難点です。

高校生が「アレクサ、〇〇の曲をかけて」とリクエストするとそれを覚えてしまい、私の趣味ではない曲を勧めてきます。そこだけは勘弁してほしいと思っています。

今回は佐野・鹿沼支部にバトンタッチです。

第261走者 足利支部 石井悟朗

## 昔走った道で山梨へ



34年前、足利から奥秩父中津峡を通る林道から三国峠(群馬・埼玉・長野県境)を越えて山梨県までドライブしました。当時、埼玉山梨を結ぶ雁坂トンネルは未開通でした。

そして今回、秩父からの林道は現在通行止めなので少々遠回りになりますが、高速道路を乗り継ぎ長野県八千穂高原ICで降り国道141号線へ。そこから県道68号線で川上村三国峠・千曲川源流方面へ進み、川端下付近から川上牧丘線で大弛峠へ、長野から山梨へ入ります。未だ長野県側は少々緊張する未舗装路です。峠の頂上では34年前と同じようにカップヌードルを食べました(笑)この道は日本一標高が高い通行可能な峠道として有名です。

頂上から先は山梨県で、下っていくと富士山が見え隠れしてきます。その富士山を見ながら入れる露天風呂、「ほったらかし温泉」へ向かいました。



34年振りに見たそこは場所を間違えたのかと思うほど変わっていました。駐車場は混雑、立派な看板、そして人、人、人だらけです。なんと風呂は2つに増え、売店、休憩所、テラスまで整備され、もはや「ほったらかし」ではなくなったようです。当時貸し切り状態で露天風呂に入ったことを覚えています。

その時撮った富士山の写真、残念ながら見つかりません。人混みは苦手ですが孫がもう少し大きくなったら今回のルートで一緒に来られたらいいなと思っています。



日本百名山の一つである「谷川岳」は、標高 1,977 m の山。猫の耳のような 2 つのピークを持つ双耳峰であるのが特徴であり、それぞれ「トマの耳（薬師岳 1,963m）」、「オキの耳（谷川富士 1,977 m）」と称され、総称して谷川岳と呼ばれています。谷川岳は別名「魔の山」ともいわれ、世界一遭難者を多く出している山としてギネスにも認定されています。



70 歳を前にして、登頂への達成感・爽快感、それに常に危険との隣り合わせである山の魅力に取りつかれ、憧れていた谷川岳に挑戦してきました。

10 月 5 日、天気は曇天、小雨模様でしたが、今回を逃すと来年になってしまうため行けるところまで行こうと決めました。

谷川岳ベースプラザから天神平駅まではロープウェイを利用し 8 : 45 に登山開始。

約 1 時間で「熊穴沢避難小屋」に到着し小休止です。ここまでは、多少のアップダウンはありましたが順調に進行。

9:53、再出発しましたが、これまでの登山道と違い、急な岩混じりの登りが続き、所々に鎖場も。30 分ほどで「天狗の溜まり場」と呼ばれる小さな岩場に到着。カメラを回しながら 10 分ほど休憩して再び登り始めましたが、ここからがかなりハードでした。

岩場・鎖場が待ち構え、急登が延々と続き、四苦八苦しながら歩き続け、かなり体力を消耗しました。それでも下方を見ると、そこには雲海が広がり、まるで空の上にいるような幻想的な雰囲気を楽しむことができました。

登山道がガレ場になった斜面に木の階段が見え始め、気づくと急に視界が開け、木立が見えなくなりました。“森林限界”これほどまでに一目で分かるほど限界線ははっきりするものかと、自然の摂理に驚くばかりです。

11:39、やっと「肩の小屋」に到着。かなり疲れていましたが、10 分ほどの休憩でいくらか体力回復。頭上に見える「オキの耳」を目指して登頂開始です。

ここからも急登が続きます。「トマの耳」登頂目前にして右大腿四頭筋が痙攣し、思いがけず一時ダウン。同伴者であり師匠の半田副会長も心配そうでしたが、強い痙攣ではなかったので少し休んで登頂再開。

12:03、一つめのピーク「トマの耳」に登頂。ここまで雲に覆われていましたが、日が差し込み反対側にある「オキの耳」や眼下に「マチガ沢」を望み、そして色付いた草紅葉を堪能できました。残念ながら、遠方はガスでまかれていたため、大パノラマの眺望は叶いませんでした。

ここからも急登が続き、体力的にかなりきつい状況が続きましたが、12:36 に「オキの耳」登頂成功、谷川岳踏破です。疲れましたが達成感がジワジワと湧いてきました。「双耳峰」からの展望は素晴らしく、また頂上から切れ落ちる谷を見ると吸い込まれそうで足が竦みます。谷川岳がなぜ人気があるのか、この景色を見れば納得します。

雄大な景色を堪能して 20 分、「オキの耳」を後にします。15 分かけて「肩の小屋」へ戻り、ここで昼食です。持参したランチパックがパンパンに膨れていて、気圧の変化を実感します。

13:15、いよいよ下山です。「肩の小屋」から先は急傾斜が続き、岩場・鎖場も多く、天候も小雨から本降りとなり、より滑りやすく脚に掛かる負荷は大きくなります。ここで滑落でもして翌日の新聞に「高齢者、無謀登山…」などと載りたくない一心で、ゆっくり、滑らないよう降りることを心がけました。全行程 6 時間 57 分（休憩 1 時間 46 分）の山行でした。

普段 3 時間程度の山歩きしかしていない私にとって、一般向けといわれるこの天神尾根コースでも、急登・岩場・鎖場に天候の急変と結構ハードルの高いコースでした。体力作りと事前準備が肝要だと痛感です。次は、春か初夏に再挑戦するつもりです。

なお、今回同行、指導していただいた半田副会長には心より感謝申し上げます。

副会長 江原義明

# 支 部 だ よ り

## 宇都宮支部

### Part.1 コミュニティってだいじだなあ

10月25日、当会館において宇都宮支部勉強会が「腰部疾患に対する施術」をテーマにディスカッション形式で行われ、参加した会員の数名から施術方法を紹介してもらった。



治療法が確立された医師とは違い、私たちの施術方法はさまざまだ。この日に紹介された施術方法はどれも興味深いものであった。

この勉強会では、症例検討やレッドフラッグ、保険関係のほか連携できる医師の情報などを得ることができるのも魅力だ。

こういった会員同士で作るコミュニティでの情報の伝達・交換・共有は、自分たちにもメリットがあり当会の活性化にもつながる。

「勉強会」などというと敷居が高くなるが、「実のある世間話」でも聞かつもりで参加してほしい。次回は「膝」をテーマに2月に開催予定だ。

### Part.2 保険部をたよって～



見を持ち寄り、その中の一つでも施術の助けになれば」と勉強会は続けていく意向が示された。

11月29日、ホテル東日本宇都宮において第2回宇都宮支部会が開催された。小椋支部長からは、10月に行われた支部勉強会について、各支部長や役員からも評価を受け、参加の要望を受けたとの報告があった。「互いの知

保険関係では、鈴木保険部長から詳細な説明があった。令和7年1～10月の返戻件数は5,528件。内訳は、後期高齢者医療移行時による給付割合の違い・協定外の負傷原因・施術部位の相違などがあるとのこと。



施術部位の相違は、患者との認識のずれが原因。多部位施術もすべてが外傷の施術であることを患者に認識してもらうことが大切だ。放散痛やしびれの施術をする場合は支給要件外であることを患者に説明し、理解を得ることも必要だ。

また、医科との併給については、外用薬・処方箋のみでは重複しない。あくまでも鎮痛消炎処置が行われている場合に該当する（関東信越厚生労働局判断）。「これに対する返戻・不支給には正々堂々と反論すべき」との助言があった。

また最近、同一患者による“複数院掛け持ち受診”が確認されている。初検時に必ず確認するよう呼びかけた。返戻や不支給事案で、自身での回答が困難な場合には、必ず保険部長まで相談してほしい。

さらに損保ジャパンとの意見交換会において、施術証明書の押印方法や材料費算定・任意一括の取扱い・支払い遅延・人身傷害など、交通事故に関する実務上の問題点の話し合いがあった。

これについては、来賓の田代会長からも人身傷害保険の取扱いや3か月打ち切り問題などへの補足があった。最初から施術期間3か月の制限をすることについては、「健保連のデータをもとにした“3ヶ月で80%が治るから”という発想は乱暴だ。事故は第三者行為であり、被害者である患者の心理・残存する症状を考慮すべき」と意見し、損保側にも納得を得られたようだ。



そして、JAとの長年の協議を例に「継続的な意見交換によって私たちの考え方も浸透しトラブルは少ない」と述べ、今後も積極的に対話を続ける方針が語られた。（詳細はP4の「保険部だより」を参照のこと）

通信員 手塚邦雄

## 足利支部

### 尊氏マラソン救護って…イイじゃん

11月2日、足利ガスグラウンドを発着点とする第48回足利尊氏公マラソン大会（ハーフ・10km・5km・3kmのコース）が開催され、県内外から参加した市民ランナーらが秋晴れの清々しい古都足利を駆け抜けた。

本格的なランナーから親子や学生、仮装している人など、昨年より740人多い4,294人が参加。

また、足利みらい応援大使のタレント勝俣州和さん、スペシャル応援サポーターとして、今若者に大人気の足利市出身で「M! L K」の山中柔太朗さんらが会場を盛り上げた。



救護体制は医師1人、看護師9人、救急救命士3人、保健師5人、足利支部柔整師7人の計25人に加え、日医ジョガーズ（医師のボランティアランナー）がコース上でのアクシデントが発生した場合、その初期対応に当たる。

私の担当した本部救護所のほかに6つの救護所があり、それぞれ本間誠・藤原幸一・大関俊明・佐藤直樹・落合彰・田口亜門会員が救護を行った。



この大会の救護員は常連が多く、役割分担を把握しているため、体調不良者は医師、転倒による擦過傷などは看護師、運動器の外傷などに対しては柔整師、現場の統括は保健師、万が一のAED担当は救急救命士が即座に対応できる体制が整っている。

毎年混雑する本部救護所の状況は、転倒による擦過傷、走行中の膝や股関節の捻挫、下腿の痙攣、脱水症状、心筋梗塞既往歴のある選手の体調不良などさまざまな訴えのランナーが訪れ、それぞれの救護者に適切に対応し大変感謝された。昨年と比べ参加者の増加により救護所の利用者も多かった。

マラソン愛好家の皆さん、ぜひ、来年は足利の街並みを走行してみませんか。

通信員 星野訓昭

## 那須支部

### 今年の骨もいいあんべ

10月19日、那須烏山市日野町泉公園でスポーツフェスティバルが開催された。前年に続き骨密度測定および健康相談を依頼され、塚原経理部長と高野が参加した。

参加者100人ほどの地域の小さな運動会。およそ2時間の骨密度測定で、測定者は中高年を中心に38人であった。

いろいろなイベントで測定をしているが、この運動会の参加者は元気な高齢者が多く、当然のように骨密度も低くない。グラウンド・ゴルフ、輪投げ、玉入れ、パン食い競争など子どもたちと元気に競い合っていた。前回の



測定の時に説明したことをきちんと実行している方が多く、地域の健康増進に役立っていると感じた。今後も依頼があれば続けていきたいと思う。

終了後、塚原部長を竜門の滝に案内し、蕎麦好きな彼のために烏山の美味しい蕎麦屋3軒をはしごし、満腹で帰路についた。

通信員 高野康弘

#### 表紙の写真▶国宝松本城（長野県松本市）

日本に12しかない江戸時代から現存する天守の一つで連結複合式天守。大天守の手前が「乾小天守」と赤い「埋橋」。南アルプスを背景に、堀に映る天守は見る人を飽きさせない美しさです。

2026 (令和8年)

# 行事予定

※定例診察日は第1・第3日曜日の10:00~12:00を基本としますが、諸般の都合により、日時・スタッフ等が変更となる場合があります。  
※定例診察の受付は9:30~11:30

## 1月

- 5日(月) 仕事始め
- 6日(火) 新年あいさつ回り
- 8日(木) 療養費支給申請書必着日
- 9日(金) 17:00 監事会 [当会館]
- 18:00 監査報告会 [当会館]
- 11日(日) 10:00 とちのきクリニック 須田医師・岡本・疋田拓・大木
- 14日(水) 20:00 理事会(支部長参加) [WEB会議]
- 15日(木) 20:00 とちのき編集会議 小森・手塚・古内
- 16日(金) 20:30 予備点検 [当会館] 理事・監事・支部長
- 20日(火) 14:00 労災審査 [当会館]
- 23日(金) 10:00 協会けんぽ審査会 [当会館]
- 10:00 国保審査会 [国保連合会902号室]
- 25日(日) 栃木県郡市町対抗駅伝競走大会 [栃木市総合運動公園]
- 10:00 とちのきクリニック 飯島医師・館・瀬端・小林
- 27日(火) 20:30 IT委員会 [当会館] 小森・丸山

## 2月

- 1日(日) 10:00 とちのきクリニック 須田医師・高野・大芦・小林
- 8日(日) 療養費支給申請書必着日
- 12日(木) 20:00 理事会 [WEB会議]
- 13日(金) 20:00 とちのき編集会議 小森・植木・萩原
- 14日(土) 18:00 令和8年賀詞交歓会 [ホテル東日本宇都宮]
- 15日(日) 10:00 とちのきクリニック 飯島医師・岡本・平野・大木
- 17日(火) 20:30 予備点検 [当会館] 理事・監事・支部長
- 18日(水) 14:00 労災審査 [当会館]
- 19日(木) 20:00 とちのき校正会議 小森・藤田・丸山
- 24日(火) 20:30 IT委員会 [当会館] 小森・木下
- 25日(水) 10:00 国保審査会 [国保連合会902号室]
- 27日(金) 10:00 協会けんぽ審査会 [とちぎ福祉プラザ]

(変更や追加などはホームページをご覧ください)



### 年末・年始の緊急連絡先

石井総務部長 ☎070-4392-0239  
または事務局 ☎080-9292-2551

# information

お知らせ

## 会員数

令和7年12月1日現在  
会員数 **348名**  
研修柔道整復師 **10名**  
施術所数 **331院**



## 会員の異動状況報告

・宇柔整182 柴崎 豊和 柴崎接骨院  
〒320-0837 宇都宮市弥生1-6-7  
☎028-636-1254 令和7年11月30日 退会

## 訃報

宇都宮支部 瀬下 治芳会員のご母堂様  
(トミ 様 95歳) がご逝去されました。  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## ご会葬御礼

過日は、ご多忙中にもかかわらず、会員の皆様にはご会葬を賜り誠にありがとうございました。  
宇都宮支部 瀬下 治芳

# 川 柳

塩谷支部 船橋 仁和

古古米も古米も同じ味オンチ  
シミュレーションして難関に立ち向かい  
錯覚と早く悟れば傷も癒え  
さあつと掛け声だけの重い腰  
取り敢えずその場凌げば息が付け  
野菜高鍋の具材が減ってゆき



## 編集後記

明けましておめでとうございます。  
昨年放送されたドラマ「ザ・ロイヤルファミリー」では、競走馬と人との絆、夢を追い続ける姿が描かれ、心動かされた方も多かったのではないのでしょうか。今年の干支は午ということで、身近なところでも馬という存在を感じられる一年になればと思います。  
また、福を招くとされる「左馬」という飾り駒があります。馬の字を反転させた形に、福が舞い込み、富が逃げないという願いを重ねた縁起物です。  
跳ねる馬の勢いにあやかりつつ、ここぞという場面で末脚が冴えわたる一年となりますように。  
本年もどうぞよろしくお願いいたします

コージー